

あすなろ通信

茅ヶ崎高校校長だより
No.4 平成29年6月22日

今しかできないこと

中学時代に出逢ったバスケットボール部の顧問の先生からは、とても大きな影響を受けた。まだ大学を卒業したばかりで、兄のような親しさと、暖かさと、情熱と、そして厳しさを持ち合わせていた。

私が通っていた中学は、新しくできたばかりだったので、まだ体育館がなく、練習はいつもグラウンドで行っていた。雨の日でも、学校の近くの公園を走らされた。最初は雨に濡れるのが嫌だったが、そのうち爽快感が出てきて、雨上がりに見えた虹がとても綺麗だったことを、きのうのように思い出す。

中学2年になるときに、私はこの中学に転校してきた。中学1年のときは、父親との約束で陸上部に所属していた。どんなスポーツをやるにしても、足腰を鍛えるのが基本である、というのが父親の考えだった。

転校とともに、陸上で走りながらいつも憧れのまなざしで練習を見ていたバスケットボール部に入部した。バスケットボールはまったくの初心者だったので、新入生である1年生と一緒に朝練習にも参加した。練習では、きのうまで小学生だった1年生にもついていけなかった。とても自分が情けなかったが、途中でやめるのはもっと情けないと思い、ずっと練習に参加した。

月に一度は、学校からおよそ7km離れた神社まで走るのが恒例になっていた。神社についた後は、崖から度胸試しに飛び降りるのも恒例だった。おそろおそろ飛び降りた私は、足首を骨折してしまった。2年生の夏休みの直前のことだった。リハビリが終わった頃には、すでに秋になっていた。

そんな状況でも部活動をやめずに続けられたのは、骨折した後の帰りの7kmを背負って運んでくれた仲間や、試合に出られなくても部員の一人として接してくれた顧問の先生の暖かい眼差しがあったからだと思う。

その先生が、卒業アルバムに書いてくれた言葉は「若さは今しかない。今しかできないことがある。その今を逃すな」と言うメッセージだった。

私も、生徒たちにそんなメッセージを伝えたいと思い、教員を目指した。顧問の先生は理科の先生だったので、私が数学の教員になったのも、少なからず影響を受けている。

中学2年から始めたバスケットボールは、今もつながりを持っている。今の活動は、もっぱら車椅子バスケットボールの審判だが、自分にとっては、これが「今しかできないこと」だと思っている。



茅高ニュース ～茅高よ、世の荒波を分けて進め～

[全日制]

体育大会を体育館で実施

6月1日(木)、前日からの雨や雷の影響もあり、体育大会は体育館での実施となりました。学年別クラス対抗の大縄跳びでは、クラス一丸となってこれまでの練習の成果を発揮しました。急遽先生チームの参加があった学年もあり、大いに盛り上がりました。また、応援合戦では、3年生の各クラスが見事なパフォーマンスを発揮しました。最後に、チアリーディング部の演技もあり、一緒に見学をしていた2年生とともに、会場が一つとなって楽しむことができました。

ボランティアと一緒にやってみませんか

ボランティア同好会では、校内のキャップ回収や、外掃除などの活動を行っており、校外では海岸清掃や地域のボランティア参加、サポートセンターでのお手伝いなどを行っています。

週2回で、短い時間ですが、ボランティアを通じて、人との交流が増え、将来のためになる様々なことを学べます。話すのが苦手だった僕も、ボランティア活動を通じて、人との交流の大切さを知り、今は「話す」ということが自分の武器となった気がします。

ボランティアは難しくありません！最初は緊張しますが、次第に楽しくなってきます。また、ボランティアは、「人のためになるもの」なので、自分もみんなも喜ぶ…ボランティアはいわばWinWinです。

学生である今の時期は、やればやるだけ自分の力になります。授業や自宅での勉強も大切ですが、僕はみなさんにボランティアをして、さまざまな人と交流して、コミュニケーション力を強くしてほしいと思っています。子供から高齢者の方まで広い世代と関わることで、自分の考えが変わったりします。

ボランティアは、みなさんにとって「将来を決める1つの方法」として、心にとめてほしいと思っています。(ボランティア同好会3年：岩城翔太)

[定時制]

“分かった”“出来た”が実感できる授業を目指して

6月14日(水)、3年生の授業を対象として、“分かった”“出来た”が実感できる授業作りを目指して、授業研究会を行いました。当日は、多くの中学・高校の先生が参加してくださいました。プロジェクターを用いて視覚的な支援を行いながら、生徒の主体的な取り組みを引き出す授業を行いました。